

- 一 前條及二賣納規則第四條ノ場合ニ於テハ更ニ鑑札料及税金ヲ納ムヘシ
- 一 賣納營業者ニ於テ規則第四條ノ改正ヲ願出新鑑札ヲ受ケルルハ請賣行商鑑札ハ書換ニ及ハス是迄所持ノ鑑札ヲ以其期限中ハ依然營業者シカラス
- 一 出願之運送ヨリ賣納營業鑑札請賣鑑札行商鑑札共各免許期限ヲ異ニスルモ營業者ニ於テ後期ノ免許ヲ得サレハ其請賣行商者ハ直チニ鑑札ヲ返納スヘシ
- 一 賣納規則第八條之場合ニ於テ營業新鑑札ヲ願受ケルモノハ更ニ鑑札料及税金ヲ納ムヘシ
- 一 賣納營業鑑札遺失毀損等ニテ新鑑札ヲ願受ケルモノハ定規鑑札料ノ半高ヲ納ムヘシ

甲第百六拾四號

九月三日

明治十年三月甲第拾四號布達第二條藥舖賣藥家連合ハ廢止候條此段布達候事

甲第百二拾號

十月廿七日

明治九年七月乾第九拾四號布達及醫員ノ連合ヲ廢シ更ニ醫業心得左ノ通相定候條此段布達候事但本文ニ抵觸スル從前ノ布達々等ハ總テ消滅ノ儀ト心得ヘシ

醫業心得

第一條 縣内ニ於テ開業スル醫員ハ許可ノ後述ニ開業月日ヲ郡役所ニ届出左ノ鑑形ノ通板札ヲ製シ門戶ヘ掲表スヘシ

但公立病院在勤ノ者モ門戶掛札ハ本文ノ通掲表スヘシ

豎曲尺 二尺

第 號	姓 名
內務省免許又ハ何府縣免許	醫 業
何 法	

主法ハ(洋)(漢)(雜)又ハ專門ノ科目ヲ記ス

第二條 郡内轉居寄留等ノ節ハ其都度郡役所ヘ届出郡役所於テハ右開業場處轉換

之分一ヶ月取纏、翌月五日限り有無共當廳へ届出へシ

但他郡役所ノ管轄内へ轉籍寄留之節ハ双方ノ郡役所へ届出郡役所ヨリ届出ノ手續ハ本文ノ通

第三條 公立病院出仕又ハ退職自宅開業スルモノハ所管郡役所へ届出郡役所於テ前條届出ノ手續ヲナスヘシ

第四條 内務省免狀所持ノモノ他府縣へ轉籍寄留又ハ他府縣免許ヲ當縣下へ寄留開業ノモノ歸籍等ノ節モ亦前條ノ手續ヲナスヘシ

第五條 本縣免狀所持ノモノ他府縣へ轉籍又ハ他府縣へ歸籍之節ハ明治十二年三月甲第四十二號布達ニヨリ添書出願之際免狀ハ還納スヘシ

第六條 改姓名又ハ水火盜難遺失等ニ依リ免狀毀失シタルモノハ其事由ヲ詳記シ更ニ新免狀ヲ申請スヘシ

第七條 廢業又ハ死亡之節ハ速ニ免狀還納スヘシ
第八條 他府縣免許ノモノ當縣下へ轉籍又ハ寄留之上開條出願之節ハ其願書ニ流

派洋漢別年齡ヲ記載シ蓋出スヘシ

第九條 開業醫ハ診斷線ヲ製シ總テ診察スル患者ノ住居身分職業姓名年齡病名原因全治死亡等ノ月日ヲ詳細記載シ置クヘシ

甲第一百廿一號 十月廿八日

明治十年三月甲第四拾四號布達相廢シ候條此段布達候事

甲第二百廿二號 十月廿九日

明治九年七月乾第九十五號布達相廢シ藥舖試驗及營業取締規則左ノ通相定候條此段布達候事

但從來營業許可ノ者ハ更ニ試驗ヲ請フニ及ハス並ニ本文ニ抵觸スル従前ノ布達々等ハ總テ消滅ノ儀ト心得ヘシ

本年甲二百五十五號ヲ以テ八條へ但書追加

藥舖試驗及ヒ營業取締規則

第一條 藥舖ヲ開業セント欲スルモノハ別紙雛形ノ願書ニ履歷書ヲ添ヘ郡役所ヲ

經テ願出テ試験ヲ請フヘシ

但試験ヲ請フケ年齡滿二十年以上ノ者タルヘシ

第二條 郡役所ニ於テハ前條ノ願書正本ニ履歷書ヲ添ヘ當廳ヘ差出シ問題ヲ請フ

第三條 問題ハ衛生課ニ於テ撰定シ左ニ列記スル一學科毎ニ之ヲ封シ郡役所ノ申

請ニ應メテ之ヲ交附スヘシ

甲 算術 洋和適宜

乙 理學大意

丙 化學大意

丁 藥物學大意

戊 處方學大意

第四條 郡役所ハ衛生掛郡書記貳名以上ヲ以試験者トナシ一問題ツ、封シ儘甲乙

順次之ヲ受驗人ニ授ケテ應答筆記セシメ一時ニ問題ヲ受驗人ニ付スルヲ得ス

但試験之節受驗人ハ書籍又ハ拔書等ヲ携帶スルヲ許サズ

第五條 試験若記ノ時間ハ毎問二時ヲ超スルヲ許サズ若シ此時間内答記スル能ハ

サルモノハ更ニ次ノ問題ヲ授ケズ

第六條 試験全ク卒ルノ後受驗人ノ答記ヲ取纏メ郡長ノ添書ヲ以テ當廳ヘ差出ス

第七條 前條ノ書類ヲ審査シ合格ノ者ニハ本縣假免狀ヲ附與スヘシ

第八條 松山高松兩病院ニ於テ藥舖學ヲ卒業セシモノハ試験成績書ヲ添ヘ願出

務省免狀ヲ乞フヲ得ヘシ

但本文兩病院外ニ於テ修業セシモノモ兩病院ノ試験ヲ經其成績書ヲ添ヘ願出

ルルハ内務省免狀ヲ請フヲ得ヘシ

第九條 前條許可ヲ得タルモノハ其門戶ニ左ノ雛形ノ如キ招牌ヲ掲ケヘシ

曲尺 二尺

第七 第 號
藥 舖 登 業
內務省又ハ本縣免許 何 某

第十條 免狀ヲ遺失シ又ハ水火盜難等ニテ毀失シタルハ其事由ヲ詳記シテ更ニ
新免狀ヲ申受クヘシ

第十一條 改姓名若クハ轉居等ノ節ハ免狀書換ヲ申請ケ廢業死亡又ハ他府縣へ轉
籍寄留ノ節ハ免狀ヲ還納スヘシ

但內務省免狀所持ノ者ハ他府縣へ轉居スルモ免狀還納ニ及ハス其旨届出ヘシ

第十二條 藥舖營業者ハ醫員ノ處方書ニ非スシテ自儘ニ藥劑ヲ調合スルヲ許サス

第十三條 家族雇人等ヲシテ藥品ヲ取扱ハシムルハ明治十三年一月第一號公布藥
品取扱規則ハ勿論總テ藥名量目等ヲ熟知スルモノニ限ルヘシ

(願書式 正副二通)

藥舖開業試驗願

今般何地ニ於テ藥舖營業仕度候ニ付御試驗之上免狀御下渡被下度履歷書相添此段
奉願候也

年 月 日

國郡町番地

身 分 姓 名 印
年 齡

町村衛生委員

姓 名 印

戶 長

姓 名 印

縣 令 宛

郡長與書定規通

甲第二百六拾五號

十二月十七日

縣下開業醫師ニ於テ脚氣間歇熱癩病患者ヲ診察治療スルキハ別紙辨形ニ照準届書
調製一ヶ月分取纏メ翌月五日限り患者地元ノ郡役所ニ可差出此段布達候事

但明治十五年一月一日ヨリ實施可致候事

本年丙第百五拾一號參考

獲病
脚氣患者治癒届
死亡

族籍生國

現今居住地郡町村名及居住

以來ノ年月

何某父母兄弟妻子等

姓名

年 齡

職業
既未婚
初感或ハ再三感
經過ノ年月日

右御届仕候也

郡町番地

醫師 姓名 印

年月日 郡長宛

間歇熱患者治癒届
死亡

族籍生國

現今居住地

何某父母兄弟妻子等

姓名

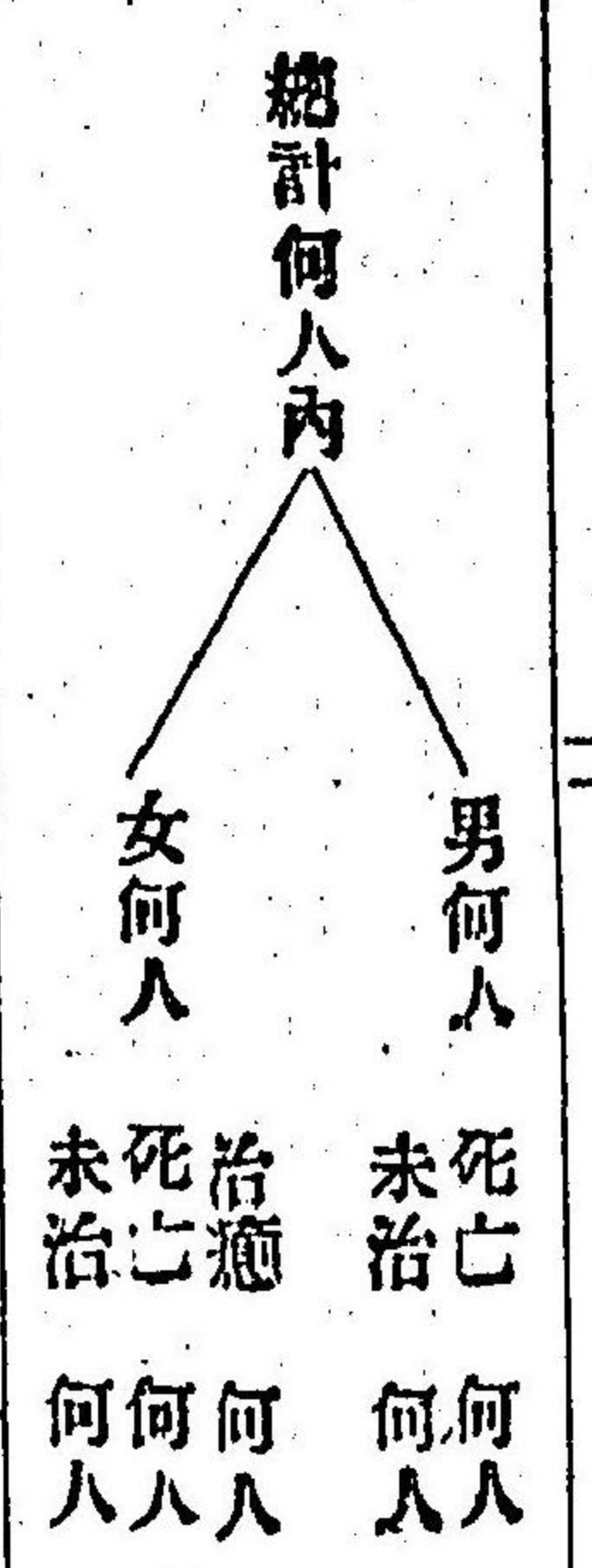
年 齡

職業
初感或ハ再三感
經過年月日
右御届仕候也

郡町番地

衛生

〇八十四



前半期中ノ發病ニシテ後半期ニ持越患者ハ表中朱書ヲ以テ記入スルヲ
甲第二百七十七號 十二月廿四日

明治十五年一月一日以降縣下開業醫師ニ於テ患者ヲ診察治療スルハ別紙雛形ニ
照準取調毎翌月五日限リ町村衛生委員ニ送附可致此段布達候事

本年乙百六十七號參考

但六傳染病及ヒ脚氣間歇熱癩病ハ別段届出ノ成規アルヲ以テ本文ノ手續ヲナス
ニ及ハス

患者届

病名	郡村町	職業	姓名	年	齡
何某子女					

右ハ何月中拙者施治ノ患者ニ候條此段及報告候也

何郡何村何番地

年月日 醫師 姓名 印

衛生委員宛

乙第百六十七號 十二月廿四日 各郡町村 衛生委員

今般甲第二百七十七號ヲ以テ患者報告之義各醫員ニ布達候ニ就テハ右報告書取總
本年乙第百六十七號雛形ニ照準製表ノ上可差出此段相達候事

但他郡町村ノ患者アルハ表面中欄別ヲ設ケ可取調候事
乙第四十二號

三月廿五日

各郡町村
醫務取締
全調査係

去ル明治十一年六月八日附テ以像續兩國ノ醫監ニ員ヲ設置候旨醫務取締全調査係
ノ相違置候處詮議ノ次第有之今般相廢候條此段相違候事

報告第廿九號

三月十九日

醫術開業受驗人心得左之通相定候條此旨報告ス

本年報告百四號ヲ以心得中更正

本年丙第四十二號參考

受驗人心得

第一條 試驗期ハ毎年三月十月ト定メ當廳及續岐國高松公立病院内ノ二ヶ所ニ於
テ開場スルヲ以受驗人ハ明治十二年内務省甲第三號布達試驗規則第二條ニ依リ

前月五日迄ニ郡役所ニ額テ附願スヘシ

第二條 開場日限ノ請ヲ受ケルハ其前日迄ニ參着シ 續岐國居住ノ者ハ高松病院
到着届ニ宿所付ヲ添ヘ差出スヘシ 伊豫國居住ノ者ハ衛生課ニ

第三條 疾病其他事故アリテ出頭シ難キモノハ開場當日迄ニ書面ヲ以其由ヲ届出
スヘシ

第四條 試驗中一日以上欠席スルハ當期ノ試驗ヲ除名スヘシ

第五條 書籍並拔書等ヲ携帯シテ試驗場ニ入ルヲ許サズ又答記了ラサル間ハ委員
ノ許可ヲ得スニテ他席ニ出スヘカラス

第六條 試驗場ニ於テハ受驗人互ニ談話スルヲ許サズ

第七條 答記ヲ委員ヘ差出シ一旦場外ニ出ルノ后ハ再ヒ改ムルヲ得ス

第八條 答記用紙ハ美濃形ノ半紙ニ限ルヘシ

但視筆墨等ハ持參スヘシ

丙第四十二號

三月廿八日

各郡

本年三月第廿九號ヲ以醫術開業及職人心得及報告候ニ付而ハ其筋へ問題請求ノ都合モ有之候ニ付該報告第一條ニ依リ志願者ヨリ願書差出候得ハ速ニ當廳へ可差出此段豫テ相達候事

丙第百七十九號

六月廿三日

各 郡

和歌山縣於テ許可ヲ得タル賣藥營業者廢業又ハ禁止ノ節行商者ノ免許繼札ハ其行商先ノ邸役所へ返納ノ等ニ付取扱方之儀今般同縣ヨリ依頼ノ趣モ有之候條右返納方申出候者有之ハ該繼札受付行商者居住地ノ郡區役所へ速ニ送付可致此段相達候事

丙第百九十四號

七月廿三日

各 郡

明治十三年七月丙第百九號達中賣藥受賣ノ下へ又ハ行商ノ四字加入候條此段相達候事

丙第百廿號

九月廿七日

各 郡

明治十二年七月乙第百廿七號達賣藥購買行商員數表差出方之儀ハ前今廢止候條此

段相達候事

丙第百廿七號

十月十二日

各 郡

本年六月甲第百十二號ヲ以郡醫配置之儀布達候ニ付テハ手當金支給方及精算手續別紙之通相達候條右ニ照準可取扱此段相達候事

郡醫手當金支給方及精算手續

第一條

一 郡醫手當金ハ一箇年兩度 一月ヨリ六月 七月ヨリ十二月 區分シテ末月支給ス

第二條

一 任死及病死等ノ節ハ都テ手當金日割ヲ以支給スルモノトス

第三條

一 第一條ノ手當金ハ一ヶ年給額ヲ二分シ 一月ヨリ六月 七月ヨリ十二月 迄ノ分ハ三月廿日迄ニ申請シ支給ノ翌月十日限左ノ離形ノ如キ精算書ヲ調製差出スヘシ
但本年七月ヨリ十二月マテノ分ハ本月廿日迄ニ申請書差出スヘシ

明治何年何月ヨリ郡醫手當金精算書

何年何月何日
縣廳ヨリ受取

一金何程

仕 拂 高

内譯

金何程

郡 醫 姓 名

(以下入別限記載スヘシ)

金何程

郡 醫 姓 名

是ハ何年何月何日郡醫拜命或ハ免職及病死ニ付何月何日ヨリ何月何日迄
何日分年給何圓日割支給ノ分

[任免等アリシキノ例以下做之]

差引

金何程

何年何月何日還納

[過金アルキソ例]

右者明治何年何月ヨリ郡醫手當金受拂精算書面之通相違無之候也

年 月 日

郡 長 姓 名 印

縣 令 宛

丙第百五十號

十二月九日

笹 郡

賣藥營業者滿期ニ至リ尙引續營業セント欲スルモノハ其滿期月ヲ經過セサル機出
願可致旨郡内右營業ノ者へ可申聞此段相違候事

○ 流行病

甲第四十八號

三月十五日

明治十二年十二月 甲第二百廿八號布達取消候條此段布達候事

甲第二百四十九號

十一月廿六日

客年十一月 甲第六十三號布達傳染病患者届出手續甲號離形症ノ字ノ下へ左ノ通追加
候條此段布達候事

何月何日何時何分診斷

乙第十二號

一月廿日

各郡町村

各警察署

監獄署及支署

衛生委員

昨十三年甲第百六十三號ヲ以傳染病患者届出手續布達候ニ付テハ自今囚徒ニ於テ
全機患者有之節醫師ノ届書ハ寫取置キ正本へ檢印ノ上直チニ其町村衛生委員ニ送
附シ順次當廳へ可差出此段相達候事

乙第百四十四號

十月卅日

各郡町村

各警察署

衛生委員

昨明治十三年太政官第三十四號公布傳染病豫防規則第十三條船舶檢査手續之儀左
之通被相定候旨達相成候條右ニ照準可取扱此段相達候事

傳染病豫防規則第十三條船舶檢査手續

一 虎列拉有病地方ヨリ來ル船舶ハ之ヲ檢査シ船中ニ該病者死者ナキモノハ乘客積
荷共直チニ上陸ヲ許スヘシ

一 虎列拉病者死者アル船舶ハ陸上ニ離レタル場所ニ停置キ先ツ其病者死者ニ消毒
法ヲ行ヒテ之ヲ處置シ次ニ乘客ニ消毒法ヲ行ヒテ上陸セシメ終リニ積荷船舶ノ
消毒法ヲ行ハシムヘシ而シテ全消毒ヲ終リタルハ何時ニテモ他港ニ向テ出帆
又ハ他ノ船舶ニ交通スルヲ得ヘシ

丙第廿七號

二月廿二日

各郡

警察署

客年十一月十一日 乙第百廿七號ヲ以傳染病届書取扱手續相達置候處當初郡役所ニ於テ醫師
ヨリ届書ヲ受ケレハ直チニ當廳へ差出シ且其旨最寄警察署若クハ分署へ通報可致
此段相達候事

但警察署又ハ分署ニ於テ該届書ヲ受ケルモ本文同様手續ヲナシ其旨郡役所へ通
知スヘシ

○雜件

甲第四號

一月十日

昨明治十三年甲第四十九號ヲ以テ地方衛生會規則公達相成候旨及布達置候處尙全規則第二條へ左ノ通但奮追加相成候條此段布達候事

第二條 但地方ノ實況ニヨリ本條定限ノ外別ニ會員ヲ要スルルハ内務卿ニ具狀
シテ之ヲ増置スルヲ得

甲第四十五號

三月十二日

石風呂營業山願手續左之通相定候條此段布達候事

但從前營業ノ者モ此手續ニ準シ更ニ可願出申

本年甲第六十一號ヲ以但奮追加

全丙第三十三號參考

第一條 自今石風呂營業ヲナサント欲ハルモノハ左ノ區別ニ從ヒ出願許可ヲ請フ

第二條 海藻其他ノ藥物ヲ用ヒ其効用ヲ取ルモノハ明治十年第七號公布賣藥規則

ニ據リ第一離形ノ願書ニ藥物現品ヲ添ヘ差出スヘシ

第三條 前條願書ニ浴室構造ノ模樣及ヒ空氣交換ノ方法男女浴場ノ區別等ヲ詳記

シタル圖面ヲ添ヘシ

第四條 第二條ノ藥物ヲ用ヒス單ニ瀉水又ハ食鹽等ヲ散布スルニ止マル者ハ賣藥

規則ノ限リニアフスト雖モ第二離形ノ願書ニ前條ノ圖面ヲ添ヘ願出ヘシ

〔第一願書式用紙美濃形半紙
正副貳通〕

石風呂營業御願

一 海藻又ハ藥物ノ種類

何々

壹度用量

目方何種

一 煎煮方法

松葉或ハ柴艸ヲ燒キ室内ヲ温メ蒸氣ヲ得テ入浴スル方法ヲ詳記ス

一 主治効能

詳細

右ハ此度新ニ營業仕度浴室構造別紙圖面ノ通ニ付御検査ノ上御差支無御座候ハ
免許鑑札御下渡被下度依テ

梅州
縣國郡村名番地

身分

年月日

戸長

姓名印

縣令宛

(第二願書式用紙
全上)

石風呂驗査御願

一 蒸氣方法

松葉或ハ柴艸ヲ燒キ室内ヲ覆メ蒸氣ヲ得テ入浴スル方法ヲ詳記ス

右ハ此度新ニ營業仕度浴室構造別紙圖面ノ通ニ付御検査ノ上御差支無御座候ハ

御許容被下度此段奉願候也

縣國郡村名番地

身分

年月日

戸長

姓名印

縣令宛

丙第卅三號

三月十二日

谷 郡

本年甲第四十五號ヲ以石風呂營業出願手續及布達置候處新規營業願出候者有之節
ハ許可ノ後必ス實地ヲ臨檢シ萬一築造方圖面ト相違ノ虞有之候ハ速ニ改良致サ
セ其旨可届出此段相達候事

但從來ノ營業ニ係ル分ハ出願ノ際實地ヲ検査シ築造方ノ良否見込會相添可差出
事

甲第四十六號

三月十二日

牛乳搾取並販賣取締規則自今左之通相定候條此段布達候事
但シ從前營業ノ者モ此規則ニ準シ更ニ可願出申

本年乙第卅六號參考

牛乳搾取並販賣取締規則

- 第一條 乳汁搾取ノ爲メ糞牛セント欲スルモノハ郊外便宜ノ地ヲ擇ミ別紙離形ノ願書ヲ其地元町村衛生委員ヲ經テ差出スヘシ
- 第二條 市街内ト雖ニ四隣人家ト隔絶シタル空間ノ垣ニ於テハ陸議ノ上許可スルコアルヘキニ付右等ノ場所ニ於テ糞糞セント欲スルモノハ別紙離形ノ願書ニ近隣人家ノ距離ヲ記シタル圖面ヲ添ヘ前條ノ手續ヲナスヘシ
- 第三條 第一條第二條ノ手續ニヨリ許可ヲ得タルモノハ其門戸ニ左ノ離形ノ招牌ヲ掲クヘシ

堅二尺

横七寸

死牛乳搾取販賣所

何某

第四條 死牛ノ効ハ其許可ヲ得タル場所限リノモノナルヲ以テ營業人於テ其畜場ヲ轉換セント欲スルモノハ更ニ第一條第二條ノ手續ヲナスヘシ

第五條 疾病アル牛ノ乳汁ヲ搾取シ若シハ血液膿汁腐敗乳等ノ混スルモノハ販賣ヲ許サス

第六條 繩具ノモノト雖モ搾取ノ后水ヲ混シ又ハ乳酪ヲ収取シタルモノハ販賣ヲ許サス

第七條 畜場ハ尿尿其佗ノ糞廢物ヲ堆積シ汚穢不潔ノ臭氣ヲ發散セサル様平素掃除ニ注意スヘシ

第八條 前條ノ掃除ヲ怠リ不潔臭穢ノ氣ヲ發散シ四隣ニ障害アリト見認ルキハ其
場所ヲ轉換セシムルカ又ハ其營業ヲ停止スルコトアルヘシ

第九條 牛疫流行ノ徵アルカ又ハ畜牛中其症ニ罹ルモノアルキハ直チニ明治十三
年本縣甲第七十二號諭達ノ通取扱フヘシ

牛乳搾取販賣ノ法ニ付願

今般牛乳搾取ノ爲メ何郡何村何番地ニ畜場相設候ニ付御許可被成下度〔市街内ナ
〔圖面〕此段奉願候也

年月日

身分 氏名 印

右戸長 氏名 印

縣令宛

乙第三十六號

三月十二日

各郡町村
衛生委員

今般甲第四十六號ヲ以牛乳搾取並販賣取縮規則布達候ニ付テハ該營業者ヨリ願書
差出候ハ、町村衛生委員ニ於テ其發賣スル場所ヲ實檢シ四隣障害ノ有無ヲ取調ヘ
見込書相添可差出此段相達候事

甲第百號

五月卅日

飲料水ハ衛生上最も重要ノモノナレド從來ノ餘習ヨリ其性質ノ良否及ヒ井泉ノ造
構河湖導管ノ裝置等ノ如何ハ更ニ顧慮セサルモノ、如シ右ハ其水源ノ摸樣或ハ穿
過スル所ノ地質及其流通集溜スル所ノ外圍底面等裝置ノ如何ニ隨ヒ各其品性ノ良
否ヲ生ス縱令ヒ其原質ハ純真ナルモ井泉ノ造構ト導管ノ裝置粗惡ナルトハ四邊ノ
土壤ヨリ汚物ヲ浸透シ爲メニ其水ヲ清潔純良ニ保存スルヲ能ハサルナリ若其不潔
汚穢ナルニ至テハ各種ノ傳染病ヲ輸傳スルニ於テ尤モ迅速ナリトス夫レ一家或ハ
一國ノ生命ヲ繫ケル所ノ飲料水ヲシテ疾患ノ騁使タラシムルニ至ルハ豈懼レザル
ヘケンヤ依テ飲水取縮規則左之通相定候條此段布達候事

本年乙第七十五號參考

飲水取締規則

- 第一條 井泉或ハ導管ヲ新設セント欲スルモノハ其造構裝置ハ以下第五條マテニ準據スヘシ
- 第二條 井泉ヲ新設セント欲セハ其地質及ヒ位地ヲ擇ムテ第一トス便所汚物溜芥溜等ニ遠ク隔離近クモ三メートル場所ヲ撰ミ可成深遠ヲ要スヘシ殊ニ埋葬地ニ遠隔ナルヲ要ス
- 但シ不得止シテ三間内ニ浚堀スルキハ事由ヲ明記シテ衛生委員ニ届出其指示ヲ受クヘシ
- 第三條 井泉外圍或ハ導管ハ鑄鉄鍛鉄石瓦陶器或ハ木竹等ニテ可及的堅固ニシ其接際ハ打濕噴ノ類ヲ填充シ汚水滲透小動物等ノ滲入ヲ防クヘシ
- 第四條 鉛ハ屈撓ニ易キノ便利アルヲ以テ導水管ヲ製スルニ實用スト雖モ通過スル所ノ水質ニヨリ毒ヲ發スルノ性アルモノナレハ決シテ用ユヘカラス是迄用ヒ來タル者ハ漸次改裝スヘシ

- 第五條 井泉或ハ導管ヲ新設セハ必ス水導ヲ附設シ其水道ハ可成暗渠ニシ下水ノ溜滯セサル様注意スヘシ
- 第六條 村落ノ如キ宅地ノ周圍余地アルモノハ必シモ第五條ニ倣フヲ要セス
- 第七條 便所肥溜汚物溜ハ其外圍底面ハ必ス打濕噴ノ類ヲ以堅牢ニ填充シ適宜ノ覆蓋ヲ設ケ雨水ノ溜滯及ヒ尿尿汚水ノ地中ニ滲透スルノ防キヲナスヘシ
- 第八條 從來所用シ井泉又ハ導管等ハ左ノ各項ニ準據シ必ス補理ヲ加フヘシ
- 第一項 井泉外圍及ヒ導管ノ破壞シテ汚水滲透スルノ患ヒアルモノ及ヒ下水々導ノ破損シテ汚水溜滯ノ患ヒアルモノハ第三條第五條ニ倣ヒ速ニ補理スヘシ
- 第二項 井泉及ヒ導管ニ下水々道ヲキレテ第五條ニ據リ可成速ニ水導ヲ新設シ下水溜滯ノ患ヲ除クヘシ
- 第三項 土地ノ高低或ハ人家稠密等土地ノ景況ニヨリ下水々道ヲ設クル能ハサル場所ハ當分ノ中汚水溜ヲ設クルモ妨ケナシト雖モ其造構ハ汚物溜ト同一ニスヘシ

第四項 現ニ汚物ヲ含有シ又ハ含有スルノ恐レアル水ハ飲料ニ供ス可カラス若
レ不得已ノ場合アリテ之ヲ用ユルハ木炭末或ハ海綿砂石ヲ以テ濾過スル等
適宜ノ淨却法ヲ施シ然レ后用ニ供ス可シ

乙第七十五號

五月卅日

各郡町村
衛生委員

今般甲第百號ヲ以テ飲水取締規則布達候ニ就テハ第二條但書ニ據リ届出候者有之
節ハ町村衛生委員ニ於テ實地ヲ検査シ實際不得已分ハ其周圍ヲ十分堅固ナラシメ
汚水滲透ノ患ナキ様指示致スヘシ此段相達候事

甲第百廿七號

七月九日

流産死亡及死体検査届出手續左之通相定候條此段布達候事
但從前ノ達指令等本文抵觸ノ處都テ消滅候事

流産死亡及死体検査届出手續

第一條 醫師施治ノ患者死亡スルトキハ主ヒノ醫師ニ於テ即時第一號雛形ノ届書

通一 其病名并ニ死ニ至ル原因月日等ヲ記入シ副印ノ上死者ノ家人ニ附與スヘシ

第二條 醫師及産婆ハ妊婦四ヶ月以上ニシテ流産或ハ死胎分娩セシモノアルキハ

即時第二號雛形ノ届書一通ニ妊娠ノ年月流産或ハ死胎分娩ノ原因月日等ヲ記入

シ副印ノ上其家人ニ附與スヘシ

但出産ノ后一旦呼吸シテ死セシ者ノ若キハ先ツ出産届ヲナシ更ニ死亡届ノ手

續テナスヘシ

第三條 死亡并ニ流産四ヶ月以上或ハ死胎分娩ノ者ノ家人ハ必ラス醫師又ハ産婆

ノ届書ヲ請求シ自家ノ届書ト共ニ所轄戸長役場ニ差出タシ埋葬免許証ヲ受テ葬

儀ヲ依託スル所ノ司葬者ニ差出スヘシ

第四條 戸長役場ニ於テハ前條死者ノ家人ヨリ差出ス處ノ届書ヲ調査シ第四號雛

形ノ埋葬免許証ヲ作り其家人ニ附與スヘシ然シテ該届書ハ毎月取纏メ翌月五日

限リ郡役所ニ差出スヘシ

第五條 患者ノ醫ヲ招カスニテ死去セシモノ及ヒ醫師若シハ産婆ノ手ヲ經スレテ

流産以ハ死胎分娩セシモノアルキハ速ニ其受持郡醫若シハ最寄醫師ニ就キ死体
檢案ヲ受シヘシ

但流産或ハ死胎分娩ノ如キハ産婆ノ檢案ヲ受クルモ妨ケナシ

第六條 郡醫若シハ最寄醫師或ハ産婆ニ於テハ速ニ其家ニ就キ死体ヲ檢案シ病死

ハ第三號流産或ハ死胎分娩ハ第二號雛形ノ届書一通ヲ作リ其家人ニ附與スヘシ

但死体ニ異狀アルカ又ハ疑シキ狀況アルキハ速ニ最寄警察署又ハ分署ヘ届出

スヘシ

第七條 司葬者ハ死者ノ家人ヨリ差出ス處ノ埋葬証ヲ受ケ葬儀ヲ施行スヘシ埋葬
証ナクシテ親ニ死者ヲ埋葬スルチ許サス

第一號雛形

死亡届

何府何國郡町番地或ハ
何縣何母兄弟
何某妻子等

職業

姓名

年齢

一病名

一原因

一年月日死亡

右者拙者施治ノ患者ニ候處致死亡候ニ付此段及御届候也

何郡何町番地

年月日

醫師

姓名印

郡長宛

二號雛形

流産又ハ死胎分娩届

何府何國郡町番地或ハ
何縣何母兄弟

何某妻妾或
何某私生

職業

衛生

〇九十八

姓名

年齢

一年月妊娠

一流産又ハ死胎分娩ニ至ル

所以知ルヲ得ヘキ丈ク

一年月日流産又ハ死胎分娩

右ハ頭書ノ通流産或ハ死胎分娩致候ニ付此段及御届候也

何郡何町番地

醫師或ハ産婆

姓名 印

年月日

郡長宛

第三號雛形

死體検案届

何府何國郡何町番地或ハ

何縣何國郡何町番地或ハ

何某父母兄弟

何某妻子等

姓名

年齢

一病名

一死亡ニ至ル以所知ルヲ得ヘキ丈ク

一年月日死亡

右ノ者検案ノ通相違無之此段及御届候也

何郡何町番地

醫師

姓名 印

年月日

郡長宛

第四號雛形 (用紙半紙四ツ切)

何府何國郡何町番地或ハ

何縣何國郡何町番地或ハ

何某父母兄弟

何某妻子等

〇九十九

姓名

一病名

一年月日死亡

年齢

右埋葬許可之証

何郡何町

年月日

戸長役場印

甲第百二十八號

七月九日

窮民救療規則左之通相定候條此段布達候事

但實施期日ノ備ハ郡役所ヨリ報告スヘシ

本年丙第百二號參考

全日五號參考

窮民救療規則

第一條 縣下各郡ノ貧民疾病ニ罹リ自費ニテ醫療ヲ受クル能ハサル者ハ藥價診察料ヲ要セス受持郡醫又ハ公立病院ニ於テ治療ヲ施スヘシ

第二條 前條ノ治療ヲ願フ者ハ町村戸長ニ就キ治療券ヲ申請ケ公立病院又ハ受持

郡醫ノ宅ニ就テ治療ヲ請フヘシ

但病症ニ因リ歩行スル能ハサルモノハ他人ナシテ治療券ヲ持參センメ郡醫ノ來診ヲ乞フヲ得ヘシ

第三條 前條ノ場合ニ於テ戸長ハ其貧者ノ身元ヲ取調實際自費ニテ醫療ヲ受ケル能ハサルモノニ限り其請ヲ斷リ治療券ヲ附與スヘシ

第四條 戸長役場ニ於テ治療券ヲ附與スルハ別紙雛形ノ通甲乙ニ記載檢印シ而シテ甲乙ヲ斷裁シ乙號ハ患者ニ附與シ甲號ハ之ヲ役場ニ留置シヘシ

第五條 治療券ハ毎月縣廳ヨリ郡役所ニ下附スヘキニ付戸長役場ニ於テハ翌月分ノ豫算ヲ立テ受取方郡役所ヘ申立ツヘシ

第六條 公立病院ニ入院ヲ欲スルモノモ亦此治療券ヲ受ケ病院ニ至リ診察ノ上病症ニ據リ入院スルヲ得ヘシ

但食料ハ自辨タルヘシ

第七條 治療券ハ一ヶ月限りノ証券ニツキ若シ翌月ニ涉ル事アルトハ更ニ新券ヲ

申受シヘシ

第八條 郡醫若シハ公立病院ニ於テ毎月末施療券ノ裏面ニ何月何日投藥休藥亡死
或ハ治療中ノ文字ヲ記載シ檢印ノ上之ヲ郡役所ニ差出スヘシ

第九條 施患者ニシテ治癒若クハ休藥スルハ其旨速ニ所轄町村戸長ニ届出スヘシ

但死亡スルモノハ本年甲第百二十七號布達ニ據ル

第十條 戸長役場ニ於テ前條ノ届書ヲ受クシテハ施療券甲號裏面ニ何月何日治癒休
藥死亡ノ文字ヲ記シ檢印ノ上前月分取纏メ翌月五日限り郡役所ニ差出スヘシ

第十一條 戸長役場ニ於テ第七條ニ據リ新券ヲ交附スルハ舊券甲號ハ何月何日
治療中ノ文字ヲ記シ郡役所ニ送ル前條ノ如クスヘシ

印朱書

明治。何年	何月。何日	甲第。何號	職。業。
何郡何町何番地 戸主或ハ何某何男女 何。何。某 何年何ヶ月			

戸長役

場之印

第。何。號	職。業	乙。何。年。何。月	施。療。之。証
何。郡。何。町。何。番。地 戶。主。或。ハ。何。某。何。男。女 何。某			何。郡。何。町。何。長 何。某。印 百一

丙第百二號

八月十一日

各 郡

今般甲第百二十八號ヲ以テ窮民救療規則布達候ニ就テハ藥價等左ノ通相定候條毎月末郡醫ヨリ請取方申出候節ハ乙號施療券ト戸長役場ヨリ差出シタル甲號券ト對照シ不都合無之候ハ、郡役所豫備金ノ内ヨリ操替置キ追テ明細書ヲ添へ請取方可申出此段相違候事

- 一 煎丸散藥 一日分 金五錢
 - 一 水藥 全 金六錢
 - 一 順服藥 一回分 金四錢
 - 一 以上十三年未滿ノ小兒ハ本價ノ半額トス
 - 一 外敷藥 一日分 金三錢
 - 一 膏藥 半分以上 金二錢
 - 一 同 半分以上 金四錢
- 右之外細帶等ニ用ユル木綿類ノ如キハ實費ニユル

衛生

〇百二

丙第百〇五號

八月十二日

各 郡

今般甲第百二十八號ヲ以テ窮民救療規則布達候處窮民取調制限ハ別段不相定規則
 第三條ニ掲ケル如ク實際赤貧ニシテ藥價ヲ償フノ資力ナキ者ニ限リ救療スヘキ儀
 ニ付郡役所於テモ精々注意シ濫救ノ弊ナキ様可爲致此段相達候事
 甲第百五拾貳號 八月十二日

灸治營業取締規則左之通相定候條此段布達候事

八月十二日付無號發參考

灸治營業取締規則

第一條 灸治ノ業ヲ營マント欲スルモノハ居住地最寄郡醫若クハ公立病院ノ試驗
 ナ受ケ別紙離形ノ願書ニ試驗者ノ保証書ヲ添ヘ免許證札ヲ收受ヘシ
 第二條 前條ノ許可ヲ得タルモノハ其門戸ニ左ノ離形ノ如キ招牌ヲ掲シヘシ

豎二尺

辨 免 第 號
 六 灸 治 營 業
 何 某

第三條 鑑札ヲ遺失シ又ハ水火盜難ニ因テ毀失シタルモノハ其事由ヲ詳記シテ届出
 更ニ新鑑札ヲ申請シヘシ

第四條 改姓名若クハ轉居等ノ節ハ其旨届出鑑札書換テ申請ケ廢業又ハ他府縣ヘ
 轉籍寄留ノ者ハ速ニ免許證札ヲ返納スヘシ

第五條 灸治ハ人ノ請求ヲ候タズ自己ヨリ人ヲ勸誘シテ強テ其術ヲ施スヲ許サズ
 第六條 人ノ請求ニユルト雖モ其病症ノ如何ヲ問ハズ猥リニ施術スルハ勿論尙シ

モ疑議アルモノハ最寄郡醫若クハ醫師ニ就キ其指示ヲ受ケルニアテサレハ施術
 スルヲ許サズ

第七條 押ヘ灸又ハ神佛ノ夢想杯ト唱フル無稽ノ妄説ヲ以テ灸治ヲ施スヲ許サズ

第八條 該營業者ハ人ニ藥劑ヲ與ヘ若シハ賣藥其他ノ藥方ヲ指示シテ之ヲ服用セ

シムルヲ許サズ

願書式

灸治營業願

一 灸治營業鑑札

壹 枚

右今般營業仕度候ニ付御覽願ノ上鑑札御下附被成下度依テ(郡醫何某(何々病院)保証書相添

〜此段奉願候也

年 月 日

國郡村
番地身分

氏 名 印

町村衛生委員

氏 名 印

戸 長

氏 名 印

縣 令 宛

郡長與書ハ定規之通

無號達

八月十二日

在 郡

公立病院

郡 醫

今般甲第百五十二號ヲ以灸治營業取締規則布達候ニ就テハ公立病院又ハ郡醫ニ於
テ右志願者試驗之手續左ノ通り相心得此段相達候事

灸治營業試驗法

第一條 灸治營業志願者ヨリ其試驗ヲ乞フモノアルトハ其行ハントスル灸穴門部
及其主治功能ヲ綿密試問シ之カ口答若クハ筆答ヲナサシムヘシ

第二條 其口答若クハ筆答ヲ勘考調査シ不都合ナシト見認ムルトハ左ノ書式ニ依
リ保証書ヲ附與シ不適當ト認ムルトハ願書ニ其旨添申スヘシ

國郡村
町番地身分

右ノ者今般交治營業志願ノ趣申出候ニ付及試験候處答辨不都合無之ト見認候ニ付保証仕候也

氏名

何那醫

年月日

氏名印

縣令宛

或ハ何々公立病院

甲第五百五十三號

八月十六日

産婆營業取締規則左ノ通知定候條此段布達候事

但從來營業許可之者ハ更ニ鑑札酬受シルニ不及並ニ從前ノ布達々等本文抵觸ノ廉總テ廢止候事

産婆營業取締規則

第一條 産婆營業ヲナサント欲スルモノハ郡醫若クハ公立病院ノ試問ヲ受ケ其保証書ヲ添ヘ町村衛生委員ヲ經テ郡役所ニ願出免許鑑札ヲ申請シヘシ

第二條 前條ノ許可ヲ得タルモノハ其門戸ニ左ノ離形ノ如キ招牌ヲ掲シヘシ
縦二尺

免	鑑	號
産	婆	營
業		
何	某	

第三條 改姓名若シハ轉居等ノ節ハ鑑札書換ヲ申請シ廢業又ハ他府縣ニ轉籍スルモノハ該鑑札ヲ還納スヘシ

第四條 鑑札ハ遺失シ又ハ水火盜難等ニヨリ鑑札ヲ毀失シタルモノハ事由ヲ詳記シテ更ニ新鑑札ヲ申受クヘシ

第五條 疾病又ハ難産ニ罹ル者アラハ速ニ醫治ヲ仰シヘキハ勿論苟モ取扱上疑議ニ涉ルコアルハ醫師ニ就キ其指示ヲ受クルニアラサレハ施術スルヲ許サス

第六條 死胎分娩及四ヶ月以上ニシテ流産スルモノアルハ本年甲第百廿七號布

連ニ依リ届書ヲ其家人ニ附與スヘシ
但墮胎ノ形跡アルカ又ハ疑フヘキ狀況アルハ速カニ最寄警察署若シハ分署
ニ通知スヘシ

第七條 妊婦ニ藥劑ヲ與ヘ若シハ賣藥其他ノ藥方ヲ指示シテ之ヲ服用セシメ又ハ
灼艾等ヲ晋ルナサス

第八條 弟子ト稱フルモノヲ經驗ノタメ産家ヘ全行スルハ妨ケナシト雖モ一己
ヲ孕婦ノ取扱ヲナサシムナサス

甲第百五拾四號 八月十六日
明治十一年二月丙第七號布達及甲第二拾號布達中針治揉治營業鑑札ニ係ル廢取消更
ニ該營業取締規則左ノ通相定候條此段布達候事

但從來營業許可之者ハ別段鑑札願受ケルコト不及候事
針治揉治營業取締規則

第一條 針治揉治ノ營業ヲナサント欲スルモノハ郡醫若シハ公立病院ノ試問ヲ受

ケ其保證書ヲ添ヘ町村衛生委員ヲ經テ郡役所ニ願出免許鑑札ヲ申請シ可シ
第二條 前條ノ許可ヲ得タルモノハ其門戸ニ左ノ雛形ノ如キ招牌ヲ掲ゲヘシ
竪二尺

第 號	何々營業
何 某	

第三條 改姓名若シハ轉居等之節ハ鑑札書換ヲ申請ケ廢業又ハ他府縣ヘ轉籍寄留
スルモノハ該鑑札ヲ還納スヘシ

第四條 鑑札ヲ遺失シ又ハ水火盜難等ニヨリ鑑札ヲ毀失シタルモノハ事由ヲ詳記
シテ更ニ新鑑札ヲ申受ケヘシ

第五條 針治揉治トモ人ノ請求ニ應スルモノニシテ荷モ己ロリ之ヲ勸メ強テ其術
ヲ施スヘカラス

第六條 人ノ請求ニモルト雖其病症ノ如何ヲ問ハス撰リニ施術スルハ勿論疑議

ニ涉ルコアルハ醫師ニ就キ其指示ヲ受クルニアテサレハ施術スルヲ除サス

第七條 人ニ藥劑ヲ與ヘ若シハ賣藥其他ノ藥方ヲ指示シテ之ヲ服用セシムルヲ許

サス

甲第百五十八號

八月廿四日

明治十一年四月甲第五拾壹號布達中該區醫務取締ヲ受持郡醫ト改メ但書免許以下尤

迄ノ三十三字ヲ刪除候條此段布達候事

甲第百拾八號

十月廿七日

屠牛場及牛肉販賣取締規則左之通相定候條此段布達候事

本年甲貳百六拾貳號ヲ以一二條中改正

本年乙第百六拾貳號參考

屠牛場及牛肉販賣取締規則

第壹條

屠牛ノ業ヲサント欲スルモノハ郊外便宜八家ヲ距ル少ノ地ヲ撰ミ四隣ノモ三丁以外

ノ地形ヲ摸寫セル色分圖ニ人家ノ距離ヲ記シ願書ニ添ヘ地元町衛生委員

經テ郡役所ニ願出許可ヲ受クヘシ

第貳條 前條ノ手續ニヨリ許可ヲ得タルモノハ其門戸ニ左ノ雛形ノ招標ヲ掲クヘ

曲尺 貳尺

○印ハ朱書

七 免 屠牛場

何郡何町番地

何 某

○營業者居住所ノ郡町村番地

第三條 免許ノ効ハ其許可ヲ得タル場所限リナルヲ以テ營業人ニ於テ其場所ヲ轉

換セント欲スルハ更ニ第壹條ノ手續ヲナスヘシ

第四條 疾病ノ徵候ナルモノヲ屠殺シ若シハ斃牛又ハ腐敗肉ヲ販賣スルコトヲ許サ

ス

第五條 牛肉販賣者ニ御賣ヲナスルハ其量目住所姓名ヲ詳悉帖簿ニ記載シ置クハ

シ

第六條 牝牛ハ牛種蕃息ノ基本ナルヲ以テ屠殺スルコトヲ許サス

但十二三歳以上ニシテ胚胎ノ期ナキモノハ此限ニアラス

第七條 血液内臓骨格其他ノ汚穢棄廢物ヲ堆積シ臭氣ヲ發散セサル様掃除清潔ニ

注意スヘシ

第八條 前條ノ注意ヲ怠リ不潔臭穢ニシテ四隣ニ障害アリト認ルルハ其營業ヲ停

止スルコトアルヘシ

第九條 牛肉小賣及行商者ハ屠牛免許ノ者ヨリ買取ルモノニアラサレハ一切販賣

ヲ許サス

乙第百六十二號

十二月十三日

各郡町村

衛生委員

本年甲第百二十八號ヲ以テ屠牛及牛肉販賣取締規則制定布達候コ付テハ從來營業ノモノ及新規該業ヲ營ント欲スルモノハ該則第一條ニ依リ許否スヘキハ勿論ノ處人家ノ距離三町以内ト雖モ實際適當ノ個所無之且一般衛生上障礙無之ト認ムル場所ニ限り詮議ノ一許用スルコトアルヘキコ付右等ノ如キモノハ其理由ヲ詳記シ當廳へ願出サスヘシ爲心得此段相達候事

甲第百十九號

十月廿七日

飲食物及小兒玩弄品着色料取締規則左之通相定候條此段布達候事

飲食物及玩弄品着色料取締規則

第一條 飲食物及小兒玩弄品ノ彩色料ハ從來慣用ノ品種ト雖モ第二條ニ掲ケルモノノ外ハ其品名成分製法及產地等ヲ詳記シ現品ヲ添ヘ伺出スヘシ

第二條 無害着色料ハ左ノ如シ

赤色之部

ベンガラ 一名鉄丹即チ
第二酸化鉄

茜 草

狸脂 コルセロールヲ以
テ製シタルモノ

蘇 木

日本紅花ヲ以テ
製スルモノ

黄色之部

山梔子

黄 柏

鬱金粉 但鬱金砂ハ毒ア
リ用ユヘカラス

消 芙 蘭

クミ并煉ズミ サワ梨ノ皮ヲ以
テ製シタルモノ

青色之部

日本藍 藍葉ヲ以テ
製スルモノ

青 粉 野 菜 葉 以 テ
製スルモノ

末茶

紫色之部

紫根

黑色之部

木炭

油 煙

金色并銀色之部

金箔

銀 箔

以上十八種ハ諸食物并玩弄品ノ着色ニ用ユル品類ニシテ單味或ハ調合ニ用ニ
ルモ妨ナシ

胡粉 (炭酸石灰)

興 銻 箔

銅箔

錫 箔

以上 小兒ノ紙ルヘキ玩弄
品ニハ用ユヘカラス

角粉

石 膏

砥ノ粉

地 ノ 粉

黄土
麒麟竭

代 赭 石
玉 墨

以上十二種ハ玩弄品ノ着色ニ用ユル品類ニシテ此品類及ヒ前項十八種ノ内單
味或ハ調合シ用ユルモ妨ケナシ

甲第二百廿三號

十月廿九日

明治十一年 四月 甲第五十四號布達種痘所及ヒ支所規則ヲ廢シ種痘普及法左之通相定
候條此段布達候事

種痘普及法

第一條 種痘醫ハ郡役所衛生掛町村衛生委員ト協議シ受持部内ヲ定メテ之ヲ町村
戸長ニ報シ戸長ハ之ヲ町村内ニ告示スヘシ
第二條 前條ノ如ク受持部内ヲ定ムト雖モ種痘兒ノ都合ニヨリ他町村受持醫員ニ
就キ又ハ之ヲ招キ接種ヲ受ケルモ妨ケナシ
但本條ノ場合ニ於テハ接種シタル醫員ニ於テ第六條ノ手續ヲナスヘシ

第三條 接種ノ時期ハ少シヨ毎月或ハ隔月トシ衛生委員ヨリ送附シタル生兒名簿
ヲ檢シ接種スヘキ人名取調其期日ト共ニ衛生委員ニ報シ且其門戸ニ期日ヲ揭示
スヘシ

第四條 衛生委員ハ前條ノ期日ヲ種痘兒ノ父兄ニ告示シ懇篤示諭勉メテ忌避ノ弊
ナキ様注意ヲ加フヘシ

第五條 種痘醫ノ日種痘醫ヨリ豫メ點檢ノ日ヲ期シ該兒ノ父兄ニ告示スヘシ
第六條 點檢ノ當日參集セサルモアルルハ其旨町村衛生委員ニ通知シ衛生委員
ハ其父兄ヲ督シテ即日點檢ヲ受ケシムヘシ

第七條 種痘醫ニ於テ前條ノ點檢ヲ了レハ明治九年內務省甲第八號布達第五條ノ
手續ヲナシ其願末ヲ衛生委員ニ通知スヘシ

第八條 衛生委員ニ於テ前條ノ通知ヲ受ケレハ生兒名簿ニ記入シ其眷屬之人名ヲ
戸長役場ニ報告シ尙未痘者ヲ督シテ接種ヲ受ケシムヘシ

第九條 戸長ハ之ヲ戶籍帖ニ記入シ置キ他町村ヘテ送附狀ニ其濟否ヲ記載スヘシ

第十條 種痘手数料ハ各自ノ分限ニ應_レ適宜タルヘシト雖_レ正金五錢以上金貳拾五錢以下タルヘシ

甲第二百六十六號 十二月十五日

明治十三年七月甲第百六號布達及本年一月甲第十七號布達相廢候條此段布達候事

甲第二百七十三號 十二月廿三日

客年九月內務省甲第十一號布達種痘人員表之儀ハ今般其筋ヨリ指令ノ趣モ有之候ニ付本年七月以降之分ヨリ差出ニ不及候此取布達候事

甲第二百七十八號 十二月廿三日

明治八年十二月廿三日 乾第百八十八號布達相廢候條此段伊豫國へ布達候事

乙第七十九號

六月七日 養那町村 衛生委員

衛生事項通信手續別冊ノ通相定候條此段相違候事

本年丙六十九號參考

全七十六號參考

緒言

一凡ソ人ノ健康ナルト否トハ事端輒廢人智開否ノ岐路ニシテ苟モ孱弱多病ナラシカ富貴ノ人其智力ヲ揮フ能ハス賤ノ人其筋骨ヲ勞スルニ勝ヘス家之カ爲ニ衰ヘ國之カ爲ニ耗シ復人間ノ幸福國家ノ富強ヲ望ム可カラサル固ヨリ論ナキナリ然リ而シテ衆人各自ラ處ハルノ實際ニ至リテハ毫モ其身体ヲ愛護シ健康ヲ保全スルノ念慮ナキ者ノ如キハ何ソヤ蓋シ本邦衛生事務ノ若手日猶淺ク自衛自愛ノ情未ク人心ニ洽カラス其意ノ注ケ處多クハ淺近頃刻ノ間ニ止リ世ノ衛生事務ニ喋々スル者ト雖_レ其注意感ハ深遠ナラス既ニ疾病死生ノ眼前ニ迫ルコト及ヒ始テ狼狽錯愕之カ防ヲ爲スニ過キサル猶火災ノ其家屋財産ヲ燒燼シ夫素煙ニ咽ヒ老弱道ニ頓シ行路ノ人モ酸鼻ニ堪ヘサルノ慘狀アルモ其恐惧戒慎ノ念慮ハ火ト俱ニ消滅シテ之ヲ永久ニ保持スルコト能ハサルカ如ク其人既ニ死シ其病既ニ癒ユルコト及シテハ直ニ之ヲ度外ニ放抛シ未ダ嘗テ其死ヲ致シ病ヲ致スノ所因ヲ探究シテ

遠之ヲ避クルノ方法ヲ求メサルナリ世人ノ此大夢ヲ呼醒シ諸般事物ノ得失利害
 〇注意シ健康ヲ傷ヒ疾病ヲ致ス所以ノ原由ヲ考究シ之ヲ未萌ニ防キ人々身体精
 神ヲシテ強壯活潑ナラシムルノ基本ヲ建ルヲ以テ目今ノ急務トナサハルヘカラ
 ス是蓋シ衛生議會及ヒ局課衛員等ノ設置アル所以ニシテ決シテ一時虎列刺病流
 行ニ由テ勿々此舉アリレハ非ラサルナリ今ヤ衛生事務ノ組織ハ議事ニ中央衛生
 會地方衛生會アリ行政ニ衛生局衛生課郡區役所衛生係町村衛生委員アリテ其体
 察備レリト謂フヘシ而シテ衛生委員ハ民吏ヲ以テ最モ親シク人民ニ接シ且多少議
 事ニ關スル所アリ各地衛生事務ノ舉否ハ專ラ此委員負擔ノ深淺厚薄如何ニ在リ
 ト謂フモ不可ナカルヘシ然レ其用アル通信報告ノ順序方法尙ホ未ダ全ク備ラサ
 レハ^諸般ノ利害得失比隣ト雖モ或ハ其情况ヲ審ニスルニ由ナシ耳目ノ觸ルハ處
 心思ノ感スル處之ヲ等閑ニ付スル非ラサルモ之カ通信ヲ爲サハルコトアリ苟モ衛
 生法ヲ考究シ之カ基本ヲ立テント欲セハ必ス先ツ各地ノ景況ヲ詳悉シ慣習ヲ探
 究シ利害得失ノ實証ヲ歴舉シ判然明著黑白ヲ辨スルカ如クナラシメ其弊害ノ恐

惧スヘキ者ヲ衆人ニ明示シ常ニ火災ノ將ニ眼前ニ興ラントスルカ如ク自ラ戒メ
 自ラ慎ムノ念慮ヲ抱持セシムルニ非ラサレハ未ダ以テ世人ノ大夢ヲ呼ヒ醒スニ
 足ラス是等般通信手續ヲ設ケ實地ノ現狀ヲ探集スルノ舉アル所以ナリ各委員深
 シ此意ヲ体シ其通信報告スル所遺漏ナク誤謬ナクシテ中央衛生會地方衛生會ニ
 於テ其利害得失ヲ審議シ衛生局衛生課ニ於テ之ヲ實施スルニ至リ以テ衛生事業
 ノ基本漸ク定リ災害ヲ未然ニ防キ國家衰耗ノ源ヲ絶ツコト得テ期スヘキナリ

明治十四年六月七日

愛媛縣衛生課

衛生事項通信手續

第一條 衛生課ハ町村衛生委員トノ間ニ通信ノ方法ヲ設ケ各地衛生事項ノ報告ヲ
 収集ス因テ衛生委員ハ力メテ事實ノ觀察ヲ密ニシ衛生課ニ通信スルコトヲ怠ラサ
 ルヘシ

第二條 一郡役所管轄内ヲ三部乃至五部ニ分テ其部内町村衛生委員ノ公撰ヲ以テ
 同員中ヨリ通信擔當者一名ヲ設置スヘシ其任期ハ部内町村ノ協議ニ任ス

第三條 通信擔當者ハ一切通信ノ責ニ任スヘシ而シテ他ノ衛生委員ハ必ラス其報告ヲ要スヘキモノト認ムル事項ヲ通信擔當者ニ通知スヘシ

但通信擔當者ハ各町村衛生委員ノ通知スル事項ヲ取捨スルコトヲ得

第四條 通信擔當者ニ於テハ他ノ衛生委員ノ通知及ヒ自個ノ取調ヘタルモノニ其意見ヲ附シ事ノ緩急ヲ測リ毎週若シハ毎月郡役所ヲ經テ衛生課ニ送ルヘシ

但至急ノ事故ニ係ル者ハ直チニ電報シ若シハ速ニ郵報スヘシ

第五條 衛生課ニ於テハ通信擔當者ヨリ送リタル通信ノ事項ハ之ヲ衛生局ニ報告シ且其利害ヲ察シテ之カ處分ヲ爲スノ基本ヲ立テ或ハ新聞紙ヲ以テ廣告シ又ハ特ニ關係ノ町村ニ通知スヘシ

第六條 通信ニ記載スヘキ事項ハ概略左ニ列記スル者ニ準スヘシ

但傳染病者ノ報知及ヒ出產死亡等ノ月報ノ如キ別ニ例規アルモノ此規則ノ限ニアラス然レモ或ハ例規アル報告ト此通信ト重複スル事アルモ妨ナシ

第一項 町村若シハ其一部分ノ面積人口幾許其住民ノ職業農工商若シハ漁樵

等ノ區別如何ニシテ一ヶ月或ハ幾週間ノ(氣候等ノ常ニ異ナルコトアテハ之ヲ記ス)出產死亡流産疾患ノ數前年ニ比シ又ハ各町村互ニ相比スルニ其多寡如何而シ其死亡ハ何病ニ因ルカ老人多キカ小兒多キカ男子多キカ婦人多キカ又ハ死亡ニ至ラサルモ何病ニ罹ル者多キカ及其原因ノ探知スヘキ者(地形寒暖晴雨其他衣食住習慣等ノ景況)之ニ關係アル衛生上ノ全況ヲ報告スル事

第二項 山林ヲ伐リ水路ヲ換ヘ田圃ヲ廢シテ居宅ト爲シ湖海ヲ埋メテ耕地ト爲ス等ノ人爲ニ依リテ氣候ヲ變シ或ハ飲水ヲ汚シコソカ爲メニ疾病ヲ誘發シ若シハ死亡ヲ増加シタル等又ハ地形ヲ改メテ荒蕪ヲ修良シ或ハ潜水ヲ疏通シ沼池ヲ汲竭スル等ノ爲メ疾病死亡ノ員數ヲ減シタル等ノ景況ヲ報告スル

第三項 脚氣間歇熱微毒癩病其他肺癆ノ如キ較著ナル疾病ノ流行増減發熄及ヒ其原因療法治死等又ハ各村互ニ相比シ或ハ之ヲ往年ニ比スルニ多寡増減

アル等ヲ報告スルコト

第四項 何病ニ拘ラス其性狀常ニ異ナルカ又傳染若クハ流行ノ兆アル者ハ其景狀ヲ詳報スルコト

第五項 傳染病者アルトハ例規ノ届ヲナスノ外別ニ其原因景況等ヲ詳報スルコト

第六項 獸畜流行ノ病其性人類ニ流傳スヘキ者アルトハ之ヲ緩急及其流傳ノ景況ヲ報告スルコト

第七項 町村内ニ醫師ナク或ハ近傍醫師ニ乏シキカ爲メ患者アルモ醫藥ヲ得カタク醫師ノ診察ヲ受ケルコト能ハサル等ノ景況又ハ町村醫ヲ設ケタルニ貧民救療ノ便否如何及其救療ヲ受ケタル患者ノ多寡ヲ報告スルコト

第八項 種痘ノ方法ヲ設ケ其普及ヲ謀ルニ接種ヲ乞フ者數年前ニ比スレハ或ハ増シ或ハ減シ未痘兒ハ幾名コト其町村一年以下又ハ五年以下人口ノ幾分或ハ再三種ノ數幾許コトテ其感不感ハ接種者幾分ノ比例ニ居ル等ヲ報告スルコト

ルコト

第九項 劇藥毒藥賤敗藥墮胎藥ノ取締ニ關セル事故及其誤用等ノ顛末ヲ報告スルコト

第十項 製藥營業ノ盛衰利害及故ヲラニ粗惡品贗品等ヲ製造スルノ惡弊アルトハ之ヲ報告スルコト

第十一項 賣藥營業請賣行商ノ取締及其受持部内人民ノ賣藥ヲ信用スルノ深淺其他針灸呪詛等ノ事ヲ信仰スルノ弊アルトハ之ヲ報告スルコト

第十二項 井戸若クハ水道ノ構造ヲ改良シ或ハ從前河水ヲ飲用スルノ習慣ナリシカ之ヲ廢シテ新ニ井ヲ堀リ又ハ其河水ヲ濾過スルノ方法ヲ設ケタル景況及其成果如何ヲ報告スルコト

第十三項 魚鳥獸肉若クハ牛乳等及飲食物ノ販賣取締ヲ爲シタル景況又ハ其腐敗若シクハ贗造ニ係ル者ヲ發見シ或ハ之ヲ食シテ其害ヲ被ルモノアル等ヲ報告スルコト

第十四項 飲食物及玩弄品ノ著色料顔料染料等ノ有害物ヲ發見シ又ハ其害ヲ被リタル者アル等ヲ報告スルヲ

第十五項 飲食物其他諸般ノ中毒ニ罹ル者ヲ見タル顛末ヲ報告スルヲ

第十六項 街路溝渠家屋周圍等ノ不潔ナルカ又ハ構造粗惡（其景狀ヲ記スヘシ）ナルカ爲健康ヲ害シ疾病ヲ發シ又ハ人ニ快適ナラサルヲ以テ其改良（其方法ヲ記スヘシ）ヲ爲シタル景況及其成果如何ヲ報告スルヲ

第十七項 市場屠場畜場魚干場肥料置場等モ亦前項ニ準シテ之ヲ報告スルヲ

第十八項 工場製造場等アリテ近隣ノ空氣河水若クハ井水ヲ汚染シ其他不快ノ惡臭劇烈ノ音響等ヲ放散シ人ノ健康安寧ヲ妨害スルノ景況或ハ其妨害ノ改良ヲ謀リタル顛末ヲ報告スルヲ

第十九項 學校病院救濟院囚獄旅館屋借屋芝居貸座敷湯屋温泉場等ノ清潔法及構造法ノ不適ナルコリ人ノ健康ヲ害スルノ景況並ニ其實驗及改良法等ヲ報告スルヲ

第二十項 惠地ノ位置地形並埋葬法火葬法ノ利害及其改良法等ヲ報告スルヲ

第二十一項 衣食住其他婚嫁ノ迅速職業風俗ノ健康ヲ害スヘキ景況並ニ其實驗若クハ意見及改良法等ヲ報告スルヲ

第二十二項 癩狂白痴癲癩盲ノ人員ノ數計ニシテ各町村互ニ相比シ或ハ之ヲ往年ニ比スルニ多寡増減アル等ヲ報告スルヲ

第二十三項 學校ノ課業時間ノ長短放場ノ廣狹及其設備等學校衛生法ニ適セズ現ニ生徒ノ健康ヲ害スルカ或ハ其虞アル等ノ景況ヲ報告スルヲ

第二十四項 製造場及礦坑ハ空氣ノ流通宜シカラス又ハ操業時間長キニ過キ或ハ年少ノ男女ヲ強使シテ健康ヲ害スル等ノ景況ヲ報告スルヲ

第二十七條 通信ハ勉メテ學業ノ進ヲ用ヒ虚飾失實ノ弊ナキヲ要ス其得失利害ノ關涉大ナル者ハ最注意スヘシ

第二十八條 通信中數量其他統計ニ屬セル者ハ表ニ製シ中毒品其他試驗ヲ要スヘキ物品及文字ヲ以テ明記シ難キ者ハ現品若クハ圖解ヲ添フヘシ

第九條 各地方官等ノ一般ニ解得シ難キモノハ傍訓ヲ施シ説明ヲ加フヘシ
第十條 衛生課ハ衛生事項ニ付疑義ノ質問ヲ受ルルハ懇ニ其答解ヲ爲スヘシ若シ
本課ニ於テ答解ヲ盡ス能ハサル者ハ地方衛生會若シハ衛生局或ハ中央衛生會ニ
質義シ又ハ之ヲ廣告シテ一般衛生學家ニ問究スヘシ

第十一條 衛生課ハ衛生事項ニ付各衛生委員ニ質問シ又ハ調査ニ爲サシムルコト有
ルヘシ

丙第六十九號

六月七日

各 郡

今般乙第七十九號ヲ以テ衛生事項通信手續相違候ニ付テハ撰舉方等左之通相心得
來ル七月卅一日限當撰入名報告可致此段相違候事

- 一 郡役所管轄ノ總人口ヲ斟酌シ三部乃至五部ニ別ツテ每部ニ一員ヲ置クヘシ
- 一 投票ハ郡役所ニ於テ之ヲ開辦シ多數ヲ以テ當撰人トシ同數ハ年長ヲ取ルヘシ
- 一 當撰人定レバ左ノ雛形ニ據リ當撰狀ヲ附與シ其住所人名受持町名ヲ本廳及
ヒ郡内ニ報告スヘシ

一 任期ハ其受持郡内町村ノ協議ニ任スト雖モ本務衛生委員ノ任期滿テクル限ハ
其本務ノ任期ト共ニ通信擔當者ノ任期モ終リタルモトス
一 通信擔當者ニ係ル諸費ハ其受持郡内町村ノ協議費ヲ以テ之ヲ支辨ハ
當撰狀書式

何郡何町衛生委員

何 某

何郡何村外何ヶ村衛生事項通信擔當者當撰候事

明治年月日

何郡役所印

丙第七十六號

六月十四日

各 郡

本年乙第七十九號ヲ以テ衛生事項通信手續相違候ニ就テハ舊通信擔當者ニ於テ第
四條ニ據リ報告書差出候ハ、郡役所ニ於テモ其可否得失及改良法等ノ意見ヲ附シ
衛生課ニ送附スヘシ此段相違候事

乙第三十九號

三月十七日

各郡町村

公立病院
醫 部

今般甲第百五十三號及甲第百五十四號ヲ以産婆並針治揉治營業取締規則有違候ニ就テハ公立病院又ハ郡醫ニ於テ右志願者試験之儀ハ別ニ問題ヲ設ケ答按筆記セシムルニ及ハス産婆コアツテハ孕婦着帯等ノ時ヨリ出産ニ至ル迄ノ取扱方ヲ問尋メ針治揉治ハ其行ハントスル刺針ノ部分又ハ揉治ノ技術ヲ問尋口答セシメ不都合ナキト見認ムルキハ左ノ書式ニ依リ保証書ヲ附與シ不適當ナルハ其旨本人願書ヲ添書可致此段相違候事

保証書式

國郡町番地身分

姓 名

右ノ者今般何ハ營業志願之趣申出及試驗候處答辨不都合無之ト見認候ニ付保証書發候也

年 月 日

何々公立病院印

無號違

八月廿四日

〔或ハ何醫姓名〕

各 郡 醫

今般甲第百五十八號ヲ以齒拔營業山廻之節試験之儀有違候ニ就テハ右志願之者ハ郡醫ニ於テ其技術ヲ詳細問尋シ口答若クハ筆答セシメ不都合ナキト見認ムルキハ保証書ヲ附與シ不適當ナルハ其旨本人願書ニ添書可致此段相違候事

○會計ノ部

○給與

甲第百三十三號

七月十四日

明治十三年本縣甲第百十九號布達町村戸長俸給規則並ニ全年甲第百二十號布達町村用掛筆生給料及戸長職務取扱諸費割賦法相應シ十四年度ヨリ左ノ通相定候條此段布達候事

本年乙第百十八號參考

全甲第百八十五號ヲ以一條二條改正

戸長以下給料及戸長役場費割賦法

第一條 戸長給料ハ一名一ケ年金五拾圓トシ其餘ハ金額ノ内一名五拾圓宛ノ十分ノ七チ人口三チノ七步チ人口 管内總人口チ 二三步チ耕宅地反別切替畑ハ反別ニ除ク以下倣之 云々以下倣之 換田ヲ算入シタル管内ノニ割合毎町村ノ人口反別ニ應シ各役場へ下附ス 總反別ヲ云フ以下倣之

第二條 前條ノ金額任免ノ場合ニ於テ若シ過不足チ生スルハ増減スルモノトス

第三條 雇 用掛 筆生 給料ハ金額ノ七步チ人口ニ三歩チ耕宅地反別ニ割合其人口反別ノ多寡ニ應シ各役場へ渡切モノトス

第四條 用需費 元職務取ハ金額ノ七步チ人口ニ三歩チ耕宅地反別ニ割合郡役所へ配附シ郡役所ニ於テ更ニ割賦額ヲ定メ各役場へ渡切モノトス

第五條 前條ノ金額ハ前年 曆ハ十四年度ナレハ十一月一日關ノ人口反別ニ據リ之チ定メ以後人口反別増減チ生スルアルモ其年中ハ増減セサルモノトス

乙第百十八號

九月廿四日

各郡町村

本年當縣甲第百三十三號及第百八十五號ヲ以テ戸長以下給料及戸長役場費割賦法 布達候ニ付テハ十四年度中ハ左ノ金額ヲ以テ各町村人口反別ニ乘シ下渡候儀ト可 相心得此段相達候事

人口壹人ニ付

戸長給料ハ金九厘三毛五糸貳忽六六三

雇給料ハ金貳錢四厘三糸貳忽三三

用需費ハ金貳錢壹厘三毛貳糸四忽三六三五

反別壹反ニ付

戸長給料ハ金四厘壹毛八糸八忽六五八三

雇給料ハ金壹錢七毛六糸三〇五五

用需費ハ金九厘五毛五糸〇貳七貳

甲第百三十九號

七月廿三日

明治十二年本縣甲第七十五號布達縣會議員旅費定則中左ノ通改正ノ儀縣會ヲ於テ
議決候ニ付認可ノ上本年度ヨリ施行候條此段布達候事

議員旅費定則中改正

第一條中旅費金貳圓貳拾錢ヲ金貳圓トス

第二條中滞在日當金八拾錢ヲ金壹圓トス

甲第四百十號 七月廿三日

地方衛生會委員支給定則左ノ通縣會ニ於テ決議候ニ付認可ノ上十四年度ヨリ施行
候條此段布達候事

地方衛生會委員支給定則

第一條 旅費ハ一日十里詰金壹圓六拾錢ノ割ヲ以其本人居住地ヨリ算シ之レヲ給
シ其片道六里ニ及ハサルモノハ之ヲ給セス

第一項 十里以上ノ端里數滿一里以外ハ日當一日分ヲ給シ一里以内ハ切捨トス

第二項 本人居住地ヨリ片道三里以外六里以内ハ往返ニテ旅費日當一日分ヲ給

シ滞留中ハ滞在日當ヲ給ス片道三里以内ノ者ハ其日數ニ應シ滞留日當ヲ給ス

第二條 滞留日當ハ一日金五拾錢ノ割ヲ以テ之ヲ支給ス

第三條 非職無給ノモノ月手當ハ日割ヲ以テ一日金壹圓宛會期中現日數ニ應シ之
ヲ支給ス

乙第十九號 一月三十一日 各郡町村

戶長給料支給心得別紙ノ通相定候條此段相達候事

本年乙第九十號參考全乙第百三十三號ヲ以心得會中追加改正

別紙

戶長給料支給心得

第一條 給料ハ毎月末日支給スルヲ定規トス

但免職病死旅行等ノ節ハ此限ニ非ス

第二條 新任轉任〔甲町村戶長ヨリ〕及ヒ免職ノモノ給料ハ其勤日數ニ應シ日割ヲ
以テ之レヲ給ス

但免職ノ者引繼事務取扱中七日以内ハ本條給料ヲ支給ス

第三條 轉任ニ付前擔當セシ事務引渡ノ爲賸日ヲ經未タ任地ノ事務ニ着手セサルモ給料ハ新任ノ役場ニ於テ支給スヘシ

第四條 他官ニ轉任スルモノハ其月ノ十五日前換テ區分シ十五日前ナレハ新任ノ應ニ於テ當官相當ヲ以テ全月分支給シ十六日後ナレハ上半月分(即チ十)日長役場ニ於テ支給スヘシ

第五條 病氣引ノ者ハ三十日間給料全額ヲ給シ其後ハ減シテ三分ノ一ヲ給スヘシ但病氣引十五日ニ至ラハ醫案ヲ副ヘ届出猶數十日間全額ニ至ラサルハ三十日毎更ニ其病狀ヲ届出ヘシ若シ醫案ニ因リ其地ヲ離レ他方ニテ治療セント欲スルモノモ亦同シ此場合ニ於テハ豫メ日限ヲ定メ届出ヘシ

第六條 父母病氣看護ノ爲休暇ヲ與フ者ハ前條ニ準ス但忌引中ハ給料全額ヲ支給スヘシ

第七條 公事失錯等ニテ糾問中ハ給料全額ヲ給ス私事ニ涉ル糾問ト雖モ日數七日

ハテハ尙全額ヲ給スヘシ保管中或ハ事故アリテ出仕指止ルモノ及私事糾問日數八日以上ニ及フモノハ減シテ五分ノ一ヲ給スヘシ

但出仕差止ル者及私事糾問八日以上ニ及フト雖モ無罪ノ言渡ヲ受ケタル者ハ其日數尙二分ノ一ヲ給スヘシ若シ其罪實決罰刑ニ處セタルハ一切給セサルヘシ

第八條 私事訴訟ノ原告又ハ証人引合トナリ之レカ爲メ出勤セサル日數八日以上ニ及フモノハ減シテ五分ノ一ヲ給スヘシ

第九條 許可ヲ得テ歸郷スル者ハ休暇中給料三分ノ一ヲ給スヘシ

第十條 免職ノ者前在職中ノ事件ニ付呼出取調物等命スルハ在職中旅費ノ半額日割ヲ以テ支給ス

但在職中或ハ自己不正ノ事件ニ涉リ取調物等ノ爲メ呼出スルハ一切給セサルヘシ

乙第九十號

七月八日

各郡町村

本年一月乙第十九號通片長給料支給心得算則ハ左之法ヲ以テ計算スヘシ此段相違候事

算則

一年給領ニ勤日數ヲ乘シ其年度現日數ニテ除クモノトス

乙第四十七號

三月卅一日

各郡町村

十二年三月乙第九十二號通旅費定則第十四章增加候處今般左ノ通改正追加候條本年四月一日ヨリ施行可致此段相違候事

本年乙第九十八號參考

第十四章改正

一郡内海路旅行ハ船賃費ヲ給シ渡海中表面ノ渡海日當ヲ支給スヘシ

但片道三里未満ノ渡海ハ船賃ノミヲ給シ渡海日當ハ給セサルヘシ

第一項 海陸兩路ニ跨ル並旅行巡回等ハ海路ノ里程ヲ扣除シ全ク陸路ノ里數ヲ得テ第二章第一項第四項第七項以下ニ準據スヘシ

第二項 一日内海陸兩路ニ跨ル陸路旅費ヲ給スル場合ニ於テハ渡海日當ハ給セサルヘシ

旅費日當表追加

役	名	族	費	等	級	郡内	渡海	日當
郡	長	一			等	金	三拾五	錢
番	記	二			等	金	貳拾五	錢
諸戶	雇長	三			等	金	貳拾	錢

乙第九十八號

七月廿三日

各郡町村

本年三月乙第四十七號ヲ以郡内渡海日當額相定候處自今郡内滞留日當之金額ヲ支給スヘシ此段相違候事

乙第九十九號

七月廿六日

各郡町村

町村戶長役場用係筆生給料額之義ニ付十二年乙第廿三號ヲ以テ相違候處右ハ相廢

止候條自今其町村戸長給料ヨリ多ラサル額ヲ以適宜支給可致此段相違候事
丙第廿八號 三月二日 各 郡

明治十一年月十二乙第卅八號遊旅費定則中客年月一丙第十三號ヲ以改正候所今般左之
通更正並追加候條此段相違候事

旅費定則

第二章第二項改正

第二項 赴任旅行ハ新任轉任及他方在勤ノ節該役所へ三里以上ヨリ
之ヲ給ス 三
里未滿ハ
一切給セス

但新任轉任ノ者旅費ハ皆悉其採用ノ役所ヨリ給スヘシ

第十五章追加

〔從前ノ十五章ヲ〕
〔十六章トス〕

一華族及有位並帶勳ノ士民郡町村ノ公用ニテ旅行ノ節ハ旅費ノ一等ヲ以テ給シ無
位ノ士民全^{生徒モ}僧侶等同斷ノ節ハ旅費ノ三等ヲ以テ支給スヘシ

但在官者ハ位勳ニ拘ハラズ總テ官等ニ據リ支給ス

無裁奪

一月廿七日

旅費定則附例第四號第二項中巡視等ヨ有之ト雖^下其他ノ御用柄ヨ^リノ九字

ヲ插入ス

無裁奪

三月二日

旅費定則附例

第一號改正

第二章第二項

一他方出張中轉任スルモ 甲ノ郡村吏乙處へ出張中乙ハ拜命前候テ區分シ拜命前日
處或ハ丙處へ轉任スルノ類 轉任若シハ新任ノ爲特ニ呼出 該地ヨリ
迄ハ舊官相當ノ旅費日當ヲ甲縣ヨリ給シス旅費ハ新任ノ職ヨリ給ス
任地迄舊官相當ノ並旅行旅費ヲ 滯留スルハ其 新任ノ職ヨリ給シ更ニ前在職地
ヨ任地迄道路里程ニ應^テ郵外並旅行額ト赴任トノ差違ノ金額ヲ手當トシテ新任
ノ職ヨリ給ス尤新任者ハ定則第十五章ノ制限據ルヘシ
但轉任ノ際直ニ赴任モス事務引繼ノ爲一旦甲郡へ出張スルモノ並旅行旅費並

該地滞留日當ハ當官相當ヲ以甲縣ヨリ支給シ而シテ其地ヨリ任地マテノ赴任
旅費ヲ新任ノ縣ヨリ給ス

一 甲ノ郡村吏ヲ乙郡村ヘ借用スル往返旅費ハ乙ノ郡村ヨリ支給ス

無號達

三月卅一日

旅費定則附例

第五號

一 郡内並旅行及滞留日當ハ局長用係等ト雖モ其郡役所管轄内ハ總テ表面ノ日當ヲ
支給スヘシ

無號達

九月十五日

給與規則附例第四號

第二條

一 廢職ノ節他方出張或ハ巡回中ノモノ被命ノ爲メ歸職セシムル時隨應該ハ舊官相
當ノ給料ヲ支給ス

無號達

九月十九日

給與規則附例

第五號

第三條

一 引渡シ事務取扱中再任官ノ者月俸ハ第四條轉任ノ例ニ準テ支給ス尤滿年計算方
ハ勤続年月ニ算入スヘシ

第七條

一 事務引渡済ノ後其儘舊事務取扱ヲ命スル時モ本條ニ準ス

○ 雜件

甲第八十五號

五月四日

損壞紙幣交換方之義大藏省爲換方於テモ取扱候條明治十一年^六甲第八十四號布達
之通相心得最寄便宜之場所ヘ交換方可申立此段布達候事

丙第十二號

一月廿二日

各 郡

稅外收入之儀客年十二月大藏省乙第四拾五號達之趣有之候ニ付十三年度所屬ノ分
ヨリ總テ雜收入ト可稱此段相違候事

但書類既ニ送致ノ分ハ收メテ差出ニ不及候事

丙第十六號

一月卅一日

各郡

明治十二年乙第六十二號達往復規程第四條但舊刪除候條自今後右ニ係ル費用ハ
郡役所經費ヲ以テ支辨可致此段相違候事

丙第十七號

一月卅一日

各郡

郡役所建築修繕費勘定帳書式別冊之通相定候條十三年度以降右ニ照準毎年
兩度ニ可差出此段相違候事

但修繕出來形精算帳ハ是迄之通每翌月五日限差出スヘシ

明治何年 自何月 至何月 郡役所建築修繕費勘定帳

何郡

金何程換算決定高

一金何程

元 請 高

此譯

金何程

何月何日縣廳ヨリ請取

金何程

〔二期ノ例〕

前期越高

此譯

仕 拂 高

金 程

何月何日精算

但何々所建増或ハ修繕ノ分

金何程

何月何日精算

但何々

一金何程

元拂差引殘

後期ハ越高 或ハ何月何日縣廳納

右ハ明治何年何月ヨリ何月マテ郡役所建築修繕費約定仕上書面之通相違無之候也

年 月 日

郡長姓名

縣令姓名宛

丙第七十一號

六月八日

各 郡

賣藥請賣鑑札製作費之儀ハ自今各郡廳費ヨリ支辨スヘシ此旨相違候事

但鑑札用紙ハ當廳ヨリ下渡候事

丙第九十九號

七月卅日

和氣溫泉久米郡 西宇和郡ヲ除ク 各 郡

明治十二年二月丁第四號達損壞新紙幣交換規則左之通追加候條此段相違候事

第十一條

一交換濟損札ヲ當廳へ運送スル費用ハ下渡スヘキニ付前條ニ準シ受取方申出ヘ

第十二條

一明治十三年第五號公布交換新紙幣壞裂ノ分ハ本年五月大藏省中第七十五號布達ニ據リ交換ノ第五條以下ニ準シ取扱フヘシ

丙第百號

八月八日

各郡

地方税ニ關スル各種營業免許鑑札廢滿期等ニテ引揚ケ之分ハ總テ其役處ニ於テ斷裁之上公賣執計代金ハ別途送納可致此段相達候事

丙第百三號

十二月廿六日

各郡

雜收入及諸返納金大藏省爲換方へ預入ノ後當廳へ上納以前其金員ノ誤納ヲ發見スルハ預入ノ月日納人ノ姓名等ヲ詳記シテ縣廳へ開申シ其指令ヲ得テ然ル後爲換方ノ證印アル證書ヲ以テ現金受取方可取計此段相達候事

但過納金モ本文ノ手續ニ準ス可シ

丙第百十六號

九月廿日

各郡

雜收入金納入方ノ儀ハ諸貸下金返納順序ニ準シ收納方可取計旨客年七月乙第七十一號ヲ以相達置候處十四年度分ヨリ諸貸下料〔官林地官有地貸下落葉下〕〔除シノ〕〔艸土石堀取料等ノ類ナリ〕

外總テ直ニ當廳へ可相納此段相達候事

丙第百廿三號

九月卅日

各郡

各郡役處ヨリ各戶長役場其他へ配付スル公文書類等脚夫ヲシテ配達セシムル人足賃ノ議ハ來ル十月一日ヨリ給與ノ部諸雇給へ組入勘定スヘシ此段相達候事
但本文達ニ矛盾スル從前ノ法規指令等ハ消滅候義ト相心得ヘシ

丙第百卅六號

十月十五日

各郡

國稅並稅外收入金歳入豫算之儀ニ付十二年十一月乙第三百八十八號ヲ以相達置候處雜收入金豫算之義ハ附來相廢止候條此段相達候事

丙第百卅七號

十月十五日

各郡

雜收入金科目別紙之通相定メ候條大藏省爲換方へ金員預ケ入之上當廳へ收納可致分ハ渾テ納稅切符へ小科目記載候儀ト可相心得此段相達候事

大 科 目	小 科 目	細 目
		會 計
		〇百二十六

森林收入		森林諸拂下代	官林地拂下代	官林枯損木拂下代	官林樅實拂下代	官林松茸拂下代	森林諸貸下料	官林地貸下料	官林落葉料	官有物拂下代
			官林立竹木拂下代	官林土石拂下代	官林椎茸拂下代	官林筍拂下代		官林下草料	官林土石堀取料	地處拂下代
										畑地拂下代
										宅地拂下代
										空地拂下代

官有物貸下料		物品拂下代	家屋拂下代	社寺跡地拂下代	荒蕪地拂下代	草生地拂下代	社寺拂下代	倉庫拂下代	立竹木拂下代	土石拂下代	不用物品拂下代	地處貸下料	宅地貸下料
			屋舍拂下代		山野拂下代	木生地拂下代			枯損木拂下代	筍拂下代		田地貸下料	田地貸下料

見別報卷第三編

會

計

〇百二十七

右者明治何年(或上下)分利金御規則ノ通受取方可申出ノ所何々ニ付
〔通延ノ事 故詳細記〕
職ス 今般頭書之金員御渡被下度此段奉願候也

年月日

何郡何町何番地

身分

何 某 印

縣名宛

明治十五年七月廿一日出版届
同 年 十 一 月 出 版

愛媛縣藏版

發兌 山上定一

(定價金壹圓七拾錢)

